

# 〈 東北・新潟の活性化応援プログラム 〉 2018年 助成団体活動成果レポート

助成団体

## 特定非営利活動法人 **ういむい未来の里CSO**

青森県青森市

プロジェクト名

### あおい森からみどりの森へ、立志の森プロジェクト



#### ■地域の紹介

青森市は、江戸時代より本州と北海道を繋ぐ交通と物流の要衝として発展した北東北における拠点都市です。三内丸山遺跡等の歴史遺産、りんごやホタテ等の豊富な食材、そして世界に誇る「青森ねぶた祭」等、魅力的な観光資源に恵まれています。

#### ■地域の課題

地球温暖化により自然環境が激変しつつあり、生物の命を育む地球の能力が限界に達しているとも言われています。それは森林資源にも顕著に影響を及ぼしています。地域全体で森林保全に取り組み、どのように生かしていくかが課題となっています。

#### ■当団体の紹介

森林での自然体験や詩の朗読会等を通じ、小中学生や保護者に森の豊かさを伝え、市民と森との関わりを広げることで、森林保全を図るとともに、環境・産業・教育を一体とした新たな林業の在り方を考えていきます。





### ■背景・目的は？

森林の価値を次代へとの確に伝え、持続可能性を高めるための事業を継続してきました。森林によって育まれる豊かな精神をもとに、次代を担う子どもたちに自然を身近に感じてもらうことを目指しました。

### ■具体的な活動は？

- 2019年5月25日

森まなびの教室を開催。（浪岡中央公民館／参加者延べ37名）

動物と植物の専門家を招き、子どもたちに対し森についてのレクチャーを行いました。

- 6月8日・9日

王余魚沢倶楽部の森に子どもたちを招き、23ヘクタールの森を案内し、思い思いに遊んでもらいました。（王余魚沢倶楽部の森／参加者延べ40名）

- 7月6日・7日

王余魚沢倶楽部の森の子どもたちの選んだ好きな場所で、将来なりたい自分の姿について杉板にメッセージを書いてもらいました。（王余魚沢倶楽部の森／参加者延べ35名）

- 8月11日（山の日）

「森あそびの日」と称して専門家を招き、一般の参加者を交えてレクリエーション・チェーンソーアート実演・森遊び・サンショウウオ体験・森の植物説明会等を行い、森を楽しんでもらう日としました。また、森まなびの教室に参加した子どもたちがメッセージを書いた杉板を自分のお気に入りの杉の立木に掛けてもらいました。（王余魚沢倶楽部の森／参加者延べ75名）

これを機に、参加者たちに森林へ通う回数を増やしてもらうため、家族で楽しむ仕掛けとして、さまざまなイベントを実施しました。また、森に参加者の足跡（メッセージボード）を残すことで、これからも森に出向くきっかけとなるように工夫しました。（王余魚沢倶楽部の森／参加者延べ78名）

小冊子「立志の森」を発行し、参加者と関係者に配布しました。



通称ターザンブランコ



子どもたちの居場所づくりをサポート



杉板に子どもたちが「未来の夢」を書く



チェーンソーアートの実演



## ■活動の成果は？

森に集う、森で遊ぶ、森で自分を発見する、森に親しんでいく、そのような精神の種が今回のプロジェクトに参加した子どもたちとその家族に蒔かれたと思います。その結果、当法人の「森びと」シリーズの第3弾として「立志の森」が発行できました。この冊子が、学校、公民館に配布されたことにより、一般の方から「王余魚沢の森」についての問い合わせを頂く機会が増えたことに加え、地元新聞社（東奥日報社）から取材も受けました。また、行政からは、山の日のイベントに協賛・協力したい旨の申し出があり、8月11日のイベントに、行政が募集した一般市民や地元の大学生も参加し、賑わいが増しました。

今回、助成金により経済的な支援を得られたことで、森で子どもたちを楽しませるためにさまざまな知見を有する方々をゲストとして招聘することができました。また、森の知識や、アウトドアでの遊び方、木材を使用したアートについて、子どもたちだけでなくその家族にとっても、楽しみながら世代間交流を行うことができ、有益なプロジェクトとなりました。子どもたちには、森の中で育っていく「個」を実感してもらえたと思います。



じゃんけん勝ち抜きレクリエーション



ビオトープでサンショウウオの生態を説明



サンショウウオを観察



風船を使ったマジック

## 団体からのコメント

これまで森をフィールドとした事業を数多く展開してきました。常に新しい手法を提示しながら、森のチカラの可能性を示してきました。

今後も、森のマーケット、野外劇、杉の木を素材とした工芸や、「湧水」をテーマにした事業を立案していきます。その際、多様なネットワークを構築することや後継者（特に女性）を見つけ出し、育成していくこと等が課題になると認識していますが、市民団体や行政と連携して実施していく予定です。

当法人のミッションは、『危機に瀕している「いのち」の多様な連鎖を、未来にむけて確実に継承するために、有為（うい＝社会）と無為（むい＝より自然なるもの）の複眼的視点を切り口に、広く市民に対して「いのち」の多様な連鎖に基づく新しい「市民社会」（Civil Society）をつくること』であり、弱者や失われつつある社会の有益性について、生物多様性の視点から、これからも解りやすく親しみやすい事業を立案していきます。

